

特集①

「重層的支援体制整備事業」が令和6年4月から本格スタート

地域共生社会の実現のための施策として、複合的な課題を抱える人々を関係機関と協働して支援する「重層的支援体制整備事業」（以下「重層事業」）が令和6年4月から名古屋市内の全ての区で本格スタートいたしました。

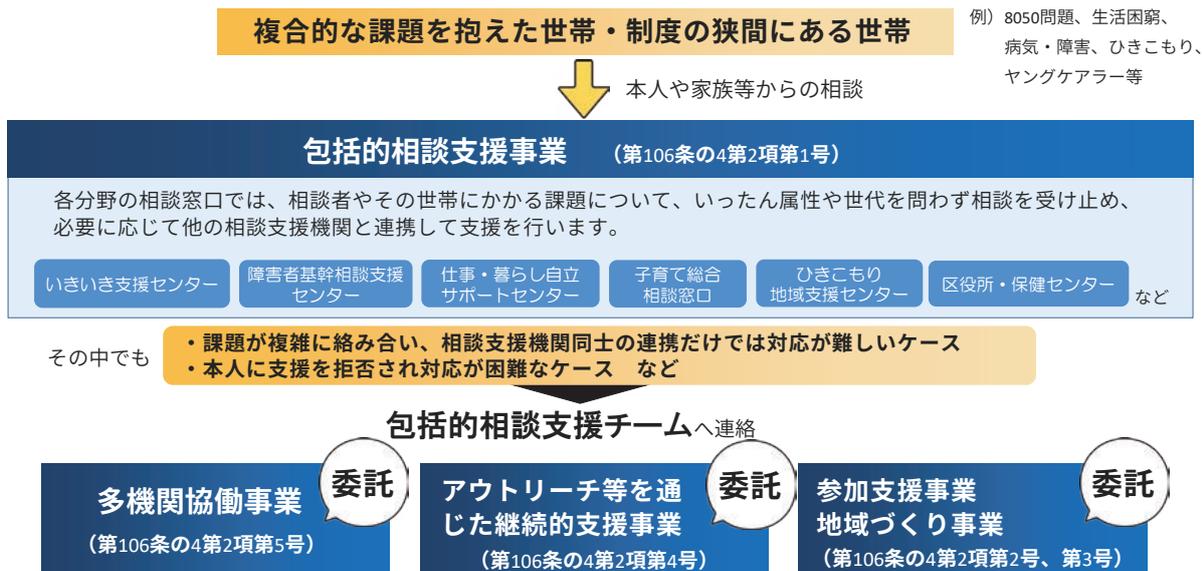
社協のこれまで培ってきた機能やネットワークを活かして市社協と区社協（瑞穂区については名古屋市総合リハビリテーションセンターを加えた三者）がコンソーシアムを組み受託、令和4年度より北区、西区、中村区、南区、令和5年度からは熱田区、中川区、港区、守山区で試行実施を開始し、今年度残りの8区とあわせて16区本格スタートとなりました。本会及び区社協が関係機関や専門職員とどのように関わり、課題の解決に向けて支援しているのかについてご紹介します。

事業概要

重層事業は、令和2年の社会福祉法改正により、市町村において、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築を推進するために創設されました。

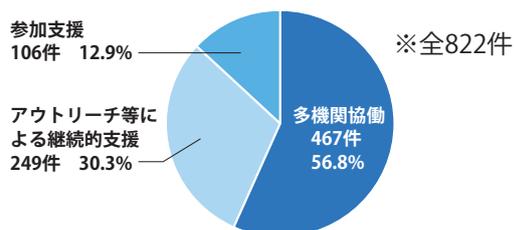
近年、個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化し、従来の分野別（子ども、高齢者、障がい者など）の相談窓口では対応が難しい、困っているにも関わらず支援の手が行き届かない「制度の狭間の問題」や、高齢の親がひきこもっている中高年の子の生活を支える8050問題など「複合的な課題」を抱えた世帯が増加しています。重層事業は、今ある様々な相談支援機関が、既存の枠組みを超え、分野・対象にとらわれず幅広く相談を受け止め、必要に応じて他の相談機関と連携し、相談支援（属性を問わない相談支援、多機関協働による支援、アウトリーチ等を通じた継続的支援）、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に行うことで、こうした新たなニーズに応えようとしています。

〈名古屋市における実施体制〉

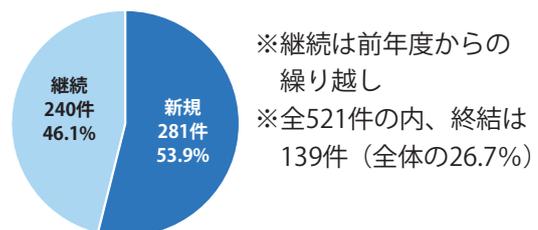


実績から見る令和5年度包括的相談支援チームの実施状況（試行実施8区）

支援事業の内訳



対応ケース数の内訳



生きづらさを抱えている方や複合的な課題を抱えた世帯、ひきこもりの方などの支援などは、本人との信頼関係を築き、会うまでも時間がかかるため、目に見える実績や成果がでるまでに年度をまたいで関わる件数が多くなっています。

実際にチームがどんな事業を行っているか次ページでご紹介いたします。

多機関協働事業 ～必要な支援機関や関係者を招集し、役割分担や支援の方向性を整理します～

相談支援機関等が単独では対応できず、相談支援機関同士の整理が必要な場合に、支援に関わる相談支援機関等が参加する重層的支援会議や支援会議を開催し、支援関係機関の役割や支援の方向性を整理します。

重層的支援会議	プランの適切性の協議等
支援会議 (社会福祉法第106条の6)	本人同意の無いケースの関係機関との情報共有や支援方針の協議
区連携会議	区における重層事業推進のための取り組みの検討、進捗管理の場



重層的支援会議の様子

事例 8050世帯

母：85才認知症
息子：55才ひきこもり
発達障害
収入：母の年金のみ
息子は母の介護ができず

民生委員

1 包括的相談支援事業

いきいき支援センター
母の支援をキッカケに息子のことを把握。息子の支援拒否により対応に難しさを感じた

2 多機関協働事業

包括的相談支援チーム
支援に必要なメンバーに声かけ。支援会議等でアセスメントと支援の役割分担を検討

3 終結の目安

世帯の課題が整理され、支援の見通しがつき、支援関係機関の役割について合意形成を図ることができた時点で、チームの関わりは一旦終了

協働する上で大切な“顔の見える関係”作りを大切にしています。複数の関係者や機関が集まることで、本人の思いとそれぞれの機関の役割をすりあわせ、その人の状況に応じた支援体制を作っています。

アウトリーチ等を通じた継続的な支援事業 ～本人への伴走支援・社会資源へのつなぎ～

長期にわたるひきこもり状態などで、必要な支援が届いていない方に働きかけたり、多様な支援活動や地域づくりの活動の中で、潜在的にニーズを抱えた方を見つけて支援します。

<アウトリーチの意識・工夫>

- 生活課題にスポットを当てるのではなく、本人の趣味や好きなことなど話しやすい話題を意識し、丁寧な働きかけにより関係性をつくる。
- 本人に渡す名刺に話題づくりとなるキーワードを盛り込む。
- 食料を持参して気にかけていることを伝え会話のきっかけにする。



事例

親亡き後の生活支援

本人：独居50才
精神障害疑い
親族：他区在住叔母、従妹
ゴミの投げ捨て行為、生活困窮、未受診

保健センター職員

1 接触を図るためのアプローチ

叔母、従妹とともに本人宅訪問。水道停止、痩せ細り歯もない状態。女性の相談員であれば訪問してもよいと確認。

2 つながり続けるアプローチ

保健師とチームで月1訪問。食料を持参、雑談の中で手紙のやりとりの希望や生活費のことを聞き取り。ゴミの話題には触れないよう会話に努めた。

3 課題解決に向けたアプローチ

受診にお金がかかることを気にしていることや女性医師の希望があり、保健センターから特定健康診査(無料)を提案し受診同行。

多機関協働事業で支援方針を決定したうえで、役割分担を行いアプローチを図りました。本人の幸せの価値観に合わせた支援を行っています。



食料や置手紙等を活用した継続的な訪問



興味のあることをきっかけとした関係づくり

支援に拒否的な方など、すぐに支援につながらない世帯に対し、様々な方法を用いて、本人に寄り添った働きかけを行います。

参加支援事業 ～社会や地域につながる第一歩を応援します～

社会から孤立している方や生きづらさを感じている方へ、決まったプログラムではなく、その方の興味関心事に着目し、オーダーメイドでメニューを作成して社会や地域につながる第一歩となる場を作っています。

つながりづくりの拠点

社会参加の第一歩を踏み出す場として各区に開設。区ごとに開設場所や運営方法は様々。

参加支援プロジェクト

区内の多様な参加の「場」や「仕組み」を検討する場。当事者団体を中心とした関係機関・団体がメンバー。



企業との連携によるeスポーツ体験会

事例 ひきこもりへの支援

本人：20代男性



- ・仕事を辞めてからひきこもり生活
- ・昼夜逆転
- ・ほとんどの時間をゲームに費やす

世帯：父、祖母と同居
いきいき支援センター職員

1 本人との関係づくり

祖母の支援で関わっているいきいき支援センターからチームに相談が入り、ともに訪問。本人の話しやすい話題を意識し関係性を構築。

2 オーダーメイドのメニュー

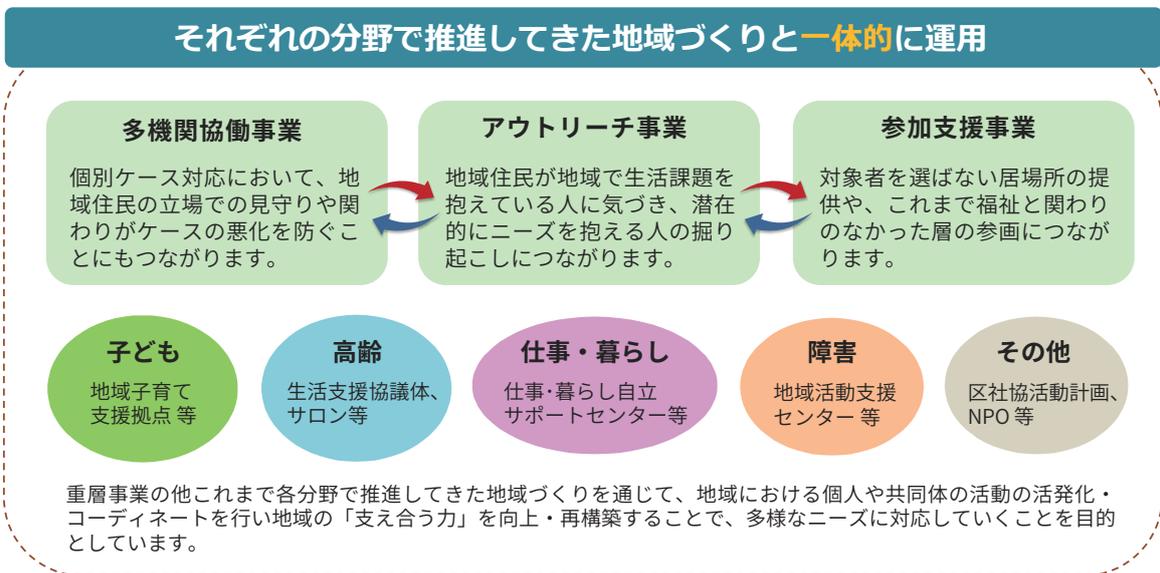
ゲームの話から拠点でのゲーム遊びを提案。拠点利用をきっかけに昼夜逆転の生活を見直し、ジムに通い始めるなど自立に向けた意欲が高まる。

3 状況にあわせたプログラム提案

小学生らとともにいった煙作業をきっかけに子どもに関わる働き口はないか関心を持つ。児童館でのアルバイトを提案し、結びつく。

地域づくり事業 ～地域の方や関係機関と協力しながら、地域課題の解決を目指した地域づくりを行います～

既存の地域づくりを活かし、対象者を選ばない居場所の発掘やそれを生み出すためにプラットフォームを作るとともに、福祉と関わりがなかった層にも参加してもらえ地域づくり、地域住民の気にかける関係を、地域の方や関係機関と協力しながら地域課題の解決を目指した地域づくりを行います。



これまで築いてきた、地域や関係機関との関係性を生かします

社協は、これまで地域住民や地域の支援機関、施設、団体と関係性を築きあげてきました。その強みを活かして、支援の制度からこぼれ落ちてしまう人たちを支えていく仕組みを作っていくことが求められています。本会は重層事業を通して、多機関・多分野との連携協働をより進め、16区社協での今までのネットワークを通じ、誰ひとり取り残さず、地域の誰もが役割を持って、つながり支えあいながら、自分らしく暮らし活躍できる地域共生社会を目指します。

